

KVK 分岐水栓付流し台用ハンドシャワー付シングルレバー式混合栓 施工説明書 1

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書を必ずご使用になるお客様の方で保管してください。
■この施工説明書はKM598TU仕様イラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重症に結びつく可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

警告 この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です。
注意 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

漏水を逆に配管しないでください。
給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。
85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。

器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

給湯に蒸気を使用しないでください。
寒冷地仕様の場合、水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。

配管などの解水のため解水機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。

通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

止水キャップ及び蓋は接続時以外にははずさないでください。
接続時以外にはずすと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

取り付け後の通水は、必ず分岐水栓に給水ホースを接続した後、行ってください。
給水ホースを接続する前に通水すると高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

他所の水栓の使用や、食器洗い乾燥機・浄水器・浄水器などの作用により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇するおそれがありますので、やけどのおそれのあるところまで水圧変動をおさえた配管設置にしてください。

やけどをするおそれがあります。

警告 給水ホースが接続されていない場合は、ワンタッチノズルの先端(白い部分)を押さないでください。

高温が出てやけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。また給水ホースが接続されていない場合は、分岐水ハンドルは必ず閉めてください。

ワンタッチノズルの圧縮を行う場合は、分岐止水ハンドルを確実に開けてからノズルをはずしてください。

分岐止水ハンドルが開いた状態でワンタッチノズルをはずすと、高温の湯が出てやけどをしたり、漏水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

注意 器具に強い力や衝撃を与えないでください。

器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。

点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

めっき部品は、ぶつたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。

めっきの表面が割れて、けがををするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。

浄水器、浄水器などをご使用になる場合は、給水接続で使用してください。

機器が故障するおそれがあります。

食器洗い乾燥機等に接続する場合は、接続機器の最高使用温度を確かめてから接続してください。

確認 最高使用温度

最高使用温度より高い温度で使用しますと、接続機器が破損するおそれがあります。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

水抜きしない凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

取り付け前に

- ① 使用水圧 [A=(給湯機の最低作動水圧)+(配管圧力損失)]
(1) 瞬間給湯機との組み合わせ (設定条件 水温: 25℃ 給湯機温度調節: 高温 吐水温度: 42℃ ハンドル全開)
【比例制御式】最低必要水圧: A+0.10MPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
(2) 貯湯式給湯機との組み合わせ
【給湯・給水圧力】最低必要水圧: A+0.08MPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯機の給湯温度は、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ⑦ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯機を選び、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ シャワーホースを伝えて水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。
- ⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図

取り付け完成図と各部の名称

KM598(Z)TU

レバーハンドル、本体、分岐止水ハンドル、分岐水栓、吐水切換ボタン、シャワーヘッド

KM590(Z)GTU

寸法図

仕様	A寸法	B寸法	C寸法
KM598TU	249	136	415
KM598ZTU			402
KM590GTU		174	415
KM590ZGTU			402

分解図

1 キャップ	36 ガイド板
2 ビス	37 分岐ジョイント
3 レバーハンドル	38 逆止弁
4 固定ナット	39 パッキン
5 カートリッジ	40 キャップ
6 吐水口	41 ビス
7 スリップ板	42 分岐止水ハンドル
8 本体	43 止水ボンネット
9 シートパッキン(白)	44 分岐水栓本体
10 輪パッキン(黒)	45 ワンタッチノズル
11 スリップ板	46 止水キャップ
12 省施工ナット	47 吐水口
13 ホースガイドA	48 シャワーヘッド
14 ホースガイドB	49 輪パッキン
15 キャップ	50 シャワーフェイス
16 カブラー	51 プラグ
17 シャワーホース	
18 パッキン	
19 水抜きユニット	
20 プレードホース	
21 ジョイント	
22 逆止弁(湯側のみ)	
23 パッキン	
24 保護キャップ	
25 クイックファスナー	
26 ジョイント	
27 ビス	
28 ストレーナ	
29 シャワーヘッド	
30 オリング	
31 パッキン	
32 ストレーナ	
33 シャワーフェイス	
34 蓋	
35 分岐金具本体	

寒冷地仕様、逆止弁無し仕様

部品の形状は仕様によって異なる場合があります。

取り付け手順

1 給水管内の清掃
配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け
給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。水受けタンク又はトレーを設置する場合は、水受けタンク又はトレーの寸法をご確認の上取り付けください。止水栓はストレーナ付が最適です。寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付 止水栓 水抜き栓付 止水栓

3 本体の固定
取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、正面シールが正面にくるように本体を完全に固定します。その際、本体に貼り付けてあるシートパッキン下面のセパレート紙をはがして固定してください。

【△注意】
・セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、ガタツキが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。シャワーヘッド、レバーハンドルを持って締め付けますと破損のおそれがありますので、これらは持たないでください。

省施工ナットを通す時、先端部のひとつを上へ押し上げて通します。

省施工ナットの締め方
ねじ部がスライドして上へ上がります。

【△注意】
省施工ナットはねじ部に差し込みだけでは完全に取り付けできません。締め付けは、専用工具G11(別売)で行ってください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、ガタツキが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

専用工具 G26(別売) 専用工具 G11(別売)

正面シール 取り付け穴 径φ36~38

シートパッキン (セパレート紙をはがして両面テープで固定)

5 ページ

4 止水栓との接続 (逆止弁付仕様、逆止弁無仕様共、接続方法は同じです。)
① ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】
・接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安約2000N・cm)
・薄肉の接続管(ニップル等)にはジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・止水栓がしっかりと固定されていることを確認してください。固定されていないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。

② ブレードホースをジョイントにはめ込みます。ブレードホースのつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

【△注意】
・ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓横元で曲げたりしないでください。(A図)急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・上下戻り配管はやめてください。(B図)ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部から水漏れ発生の原因となります。
・ブレードホース同士の接触及び、壁などへのブレードホースの接触は避けてください。接触部から亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・ブレードホースは切断しないでください。

③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめ込みます。

【△注意】
ブレードホースを上へ引っ掛けて、抜けないことを確認してください。しっかりとまっすぐにしないと漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

④ クイックファスナーに保護キャップをはめ込みます。この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまで下ろします。

6 ページ

5 シャワーホースの接続
① 同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。
【お願い】ホースガイドは壁面に固定しないでください。
② (1) ホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめ込みます。(ホースガイドBは、一般地仕様の場合はホースに付いています。寒冷地仕様の場合は同梱しています。)
(2) [一般地仕様の場合] カプラーが下向きになるように、ホースガイドBを90度回転させます。
[寒冷地仕様の場合] ホースガイドBを90度回転させ、シャワーホースをホースガイドBに上から通します。

【△注意】
・固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。B図のように、ブレードホースに引っ掛かり、ひねったりしないでください。シャワーホースが破損し漏水により家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・[一般地仕様のみ] カプラーとホースの接続が緩んでいないか確認してください。
・[寒冷地仕様の場合] 差し込み時に、増し締めしてください。(増し締めトルクの目安約100N・cm)

【お願い】ホースガイドAとBを横から見ると、凹凸部が合っているか確認してください。ずれている場合は合わせてください。(C図)

ホースガイド取り付け後、同梱の水抜きユニットをパッキンをはさんでシャワーホースに接続します。その際、シャワーホースをプライヤー等で固定して締め付けてください。

【△注意】
・締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安約200N・cm)
・シャワーホースをねじらないでください。シャワーホースが破損するおそれがあります。
・シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけないでください。シャワーホースが破損するおそれがあります。
・本体のプラグにカプラーを押し込む前に、カプラーと水抜きユニットの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。(増し締めトルクの目安約100N・cm)

③ カプラー(寒冷地仕様は水抜きユニット)のキャップをはずし、スライダを下に下ろしてから、本体のプラグへカッチと音がするまで押し込みます。(スライダーがすでに下りている場合もあります。)取り付け後、カプラーを引っ張ってはずれないことを確認します。

【△注意】
カプラー取り付け後、確実に接続されているか、以下の確認を行ってください。確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
・スライダーが5mm程度上がっていること

【△注意】
シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水パイプの間にぶら下げて取り付けください。シャワーホースが引き出しにくくなります。

【△注意】
シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。ホースとの接続の銅管部を曲げることで左右に振ることがあります。

7 ページ

6-1 分岐水栓の取り付け (工場出荷時は、水側分岐仕様になっています)
【△分岐水栓取り付け時のご注意】

【△警告】
・止水キャップ及び蓋は接続時以外ははずさないでください。接続時以外にはずしますと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・取り付け後の通水は、必ず分岐水栓に給水ホースを接続してから行ってください。給水ホースを接続する前に通水すると、高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・給水ホースが接続されていない場合は、分岐止ハンドルは必ず閉めてください。また、ワンタッチノズルの先端(白い部分)を押さないでください。高温の湯が出てやけどをしたり、湯水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

・分岐水栓のワンタッチノズルには緊急止水機能が付いていますので、万一給水ホースがはずれた場合や給水ホースを付けない状態では、緊急止水機能が働いて通水されません。
・分岐水栓は給水・給湯どちらでも使用できますが、浄水器、整水器などをご使用になる場合は、給水接続で使用してください。又、食器洗い乾燥機の場合、給湯機の設定温度によっては給水接続しかできない場合がありますので、接続する機器の仕様を十分確認してください。
・接続の場合は、接続する機器(食器洗い機等)の給水条件及び施工上の注意事項をよくご確認ください。
・分岐水栓には止水機能は必ず付いていないことを確認してください。
・給水ホースをはずす際は、必ず分岐止ハンドルが閉まっていることを確認してください。通水中に給水ホースをはずさないでください。万一はずれた場合は、ワンタッチノズルに圧力がたまり、再度取り付けの際、接続しにくい場合がありますので「ワンタッチノズルの圧逃し」を行ってください。

【△注意】
締め付けは、二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。しっかりと締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。

【△注意】
締め付けは、二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。しっかりと締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。

【△注意】
締め付けは、二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。しっかりと締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。

8 ページ

6-2 湯・水同時分岐する場合 別売の分岐ジョイント(Z108)1個と、別売の分岐水栓(K190GTU)1個を用意してください。

- ① 湯水の止水栓の止水弁又は元栓をしっかりと締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
- ② 右側(水側)の分岐ジョイントの止水キャップを取りはずし、分岐水栓を取り付けます。
- ③ 左側(湯側)の蓋をはずします。
- ④ 左側(湯側)に別売の分岐ジョイント(Z108)を取り付けます。
- ⑤ 別売の分岐水栓(K190GTU)を取り付けます。

この時、分岐ジョイントが緩まないようにスパナ等で固定しながら取り付けてください。

【△注意】締め付けは、二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。しっかりと締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。

7 給水ホース(別売)の接続

給水ホース(別売)について

【△注意】日本電機工業会規格JEM 1206に合致しない給水ホース継手は使用しないでください。通水不良や水漏れのおそれがあります。

その他の接続例 分岐水栓の先端のワンタッチノズルは取りはずしできます。この場合、緊急止水機能は動きませんので注意してください。

G1/2のナット(別売)が接続できます。取りはずし

ワンタッチノズル

分岐水栓

G1/2ナット(別売)

ホースニップル(別売 品番:Z907)が接続できます。取りはずし

ワンタッチノズル

分岐水栓

ホースニップル(別売品番:Z907)

【△注意】
・ホースニップルの接続先では止水しないでください。ホースが抜けるおそれがあります。
・ホースニップルは食器洗い乾燥機には使用できません。

ワンタッチノズルの圧逃し方法

万一通水中に給水ホースがはずれた場合は、ワンタッチノズル内に圧力がたまり、再度取り付ける際、接続しにくい場合がありますのでワンタッチノズルの圧逃しを行ってください。

- ① 分岐止水ハンドルをしっかりと閉めます。

【△警告】分岐止水ハンドルは確実に閉めてください。開いた状態でワンタッチノズルをはずすと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

- ② 給水ホースをはずします。
- ③ ワンタッチノズルをはずし、圧を逃します。圧逃し後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

取り付け後の点検と清掃

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーフェイス・ストレーナ清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で湯温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	10ページ「湯温・流量調節」
	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつかっていませんか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	取扱説明書7ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」
	ガス給湯機と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯機の能力を適正能力にセットする	—
	シャワーフェイス・ストレーナは凍っていませんか	シャワーフェイス・ストレーナにぬるま湯をかける	—
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	10ページ「湯温・流量調節」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	10ページ「湯温・流量調節」
	給湯機から十分な湯がきていますか	給湯機の設定温度・作動を確認する	—
温度調節がうまくできない	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	10ページ「湯温・流量調節」
	給湯機から十分な湯がきていますか	給湯機の設定温度・作動を確認する	—
	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつかっていませんか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	取扱説明書7ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」
吐水が飛び散る	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつかっていませんか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	取扱説明書7ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」
給水ホースがはずれた状態で湯水が出ない	緊急止水機能が働いて通水されないしくみになっています。故障ではありません。給水ホースを再度取り付ける際、接続しにくい場合がありますのでワンタッチノズルの圧逃しを行ってください。		9ページ「ワンタッチノズルの圧逃し方法」

【カートリッジのメンテナン】 【△注意】 修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。カートリッジのメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。